TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　340語

The Wolf and the House Dog

オオカミと飼い犬

Aesop（1919年の本）　**原文そのまま**　朗読：Terry Torres

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　おなかをすかせたやせっぽちのオオカミが、太った飼い犬に出会います。「ぼくのようにくらせば、ごちそうがもらえるよ」と言われますが……。



There was once a Wolf who got very little to eat because the Dogs of the village were so wide awake and watchful. He was really nothing but skin and bones, and it made him very downhearted to think of it.

One night this Wolf happened to fall in with a fine fat House Dog who had wandered a little too far from home. The Wolf would gladly have eaten him then and there, but the House Dog looked strong enough to leave his marks should he try it. So the Wolf spoke very humbly to the Dog, complimenting him on his fine appearance.

"You can be as well-fed as I am if you want to," replied the Dog. "Leave the woods; there you live miserably. Why, you have to fight hard for every bite you get. Follow my example and you will get along beautifully."

"What must I do?" asked the Wolf.

"Hardly anything," answered the House Dog. "Chase people who carry canes, bark at beggars, and fawn on the people of the house. In return you will get tidbits of every kind, chicken bones, choice bits of meat, sugar, cake, and much more beside, not to speak of kind words and caresses."

The Wolf had such a beautiful vision of his coming happiness that he almost wept. But just then he noticed that the hair on the Dog's neck was worn and the skin was chafed.

"What is that on your neck?"

"Nothing at all," replied the Dog.

"What! nothing!"

"Oh, just a trifle!"

"But please tell me."

"Perhaps you see the mark of the collar to which my chain is fastened."

"What! A chain!" cried the Wolf. "Don't you go wherever you please?"

"Not always! But what's the difference?" replied the Dog.

"All the difference in the world! I don't care a rap for your feasts and I wouldn't take all the tender young lambs in the world at that price." And away ran the Wolf to the woods.

> **There is nothing worth so much as liberty.**

和訳 オオカミと飼い犬（The Wolf and the House Dog）

むかし、あるオオカミがいました。村の犬たちがいつも目をさましていて、しっかり見はっているので、オオカミはほとんど食べ物にありつけませんでした。オオカミはがりがりにやせていて、そのことを思うと、すっかり元気がなくなるのでした。

ある夜、このオオカミは、家から少し遠くまで歩いてきてしまった、りっぱに太った飼い犬に出会いました。オオカミはその場で犬を食べてしまいたいところでしたが、飼い犬は強そうで、手を出したらかみつかれてけがをしそうでした。そこでオオカミはとてもていねいに犬に話しかけ、「りっぱなすがたですね」とほめました。

「なりたければ、きみもぼくみたいにたっぷり食べられるよ」と犬は答えました。「森を出なよ。あそこのくらしはみじめだもの。だって、一口食べるのにも、いっしょうけんめい戦わなきゃならないんだろう。ぼくのまねをすれば、うまくやっていけるよ。」

「なにをすればいいんだい？」とオオカミはたずねました。

「ほとんどなにもしなくていいのさ」と飼い犬は答えました。「つえを持った人を追いかけて、物ごいの人にほえて、家の人たちにはしっぽをふってあまえるんだ。そのかわりに、いろんなおいしいものがもらえるよ。とりの骨に、上等の肉、さとう、ケーキ、まだまだたくさん。やさしい言葉をかけてもらったり、なでてもらったりもできるんだ。」

オオカミは、これからのしあわせなくらしを思いうかべて、うれしくてなきそうになりました。ところがちょうどそのとき、犬の首の毛がすりきれて、皮がすりむけているのに気がつきました。

「その首のところは、どうしたんだい？」

「なんでもないよ」と犬は答えました。

「えっ、なんでもないって！」

「ああ、ほんのちょっとしたことさ！」

「でも、教えておくれよ。」

「たぶん、くさりをつなぐ首輪のあとが見えているんだろう。」

「なんだって！くさりだって！」とオオカミはさけびました。「きみは、行きたいところへどこでも行けるんじゃないのかい？」

「いつもじゃないさ！でも、それがどうしたっていうんだい？」と犬は答えました。

「大ちがいだよ！きみのごちそうなんか、ちっともほしくない。そんなことと引きかえなら、世界中のやわらかい子ヒツジをもらったって、おことわりだ。」そう言って、オオカミは森へ走っていってしまいました。

> **自由ほどねうちのあるものはありません。**

たんご と クイズ オオカミと飼い犬

Wolf オオカミ	**Dog** 犬	**woods** 森
bones 骨	**cake** ケーキ	**collar** 首輪
chain くさり	**liberty** 自由	

Q1 **オオカミがやせていたのはどうして？**

① 病気だったから　② 村の犬たちが見はっていて、食べ物がとれなかったから

③ ダイエットしていたから

Q2 **犬の首のあとは、なんのあと？**

① けんかのきず　② ぼうしのあと　③ くさりをつなぐ首輪のあと

Q3 **さいごにオオカミはどうした？**

① 森へ走って帰った　② 犬といっしょに村へ行った　③ 犬を食べた

こたえ

Q1 ② 村の犬たちがいつも目をさまして見はっていたので、オオカミはほとんど食べ物にありつけなかったのです。

Q2 ③ 犬の首には、くさりをつなぐ首輪のあとがついていました。犬はいつも自由に歩けるわけではなかったのです。

Q3 ① くさりにつながれるくらいなら、ごちそうなんかいらない、と言って、オオカミは森へ走っていきました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Terry Torres（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。